

# 「地域で受けつがれてきたもの」

発行  
令和3年12月  
中部教育事務所

授業者 井上 寛太 教諭（津野町立葉山小学校）

第4学年の内容 （4）県内の伝統や文化、先人の働き

## 本時で達成したい目標

◇調べてきたことをもとに、三嶋様のお祭りは昔から大切に受け継がれてきたことを捉えることができる。

### 単元を貫く問い

三嶋様のお祭りは、どのようにして受けつがれてきたのだろう。



三嶋様のお祭りは、江戸時代からはじまり、津野氏や三嶋神社の神様への慰霊や、年に一度のお祝いのお祭りとして行われてきた。また、保存会の人たちや神主さんをはじめ、地域の人たちが協力して、お祭りや踊りを伝えていくために様々な努力や工夫をしている。

### 単元計画（全10時間）

- 第1時 津野町には、どのような年中行事があるのだろう？
- 第2時 三嶋様のお祭りは、いつ、だれが、何を、なぜ、どのように行っているのだろう。
- 第3～5時 三嶋様のお祭りについて調べよう。
- 第6時 三嶋様のお祭りは、なぜ今でも続いているのだろう？（本時）
- 第7時 三嶋様のお祭りは、どのようにして行われてきたのだろう。
- 第8時 三嶋様のお祭りを、これからも伝えていくためには、どうすればよいだろう。
- 第9時 県内には、昔から受けつがれてきたどのようなものがあるのだろう。
- 第10時 他の地域の学校と学んだことを発表し合おう。（ICT活用）



### 見方・考え方

- 時期や時間の変化
- 場所や広がり
- ↓
- 工夫やかかわり
- 関連づける
- ↓
- 総合する

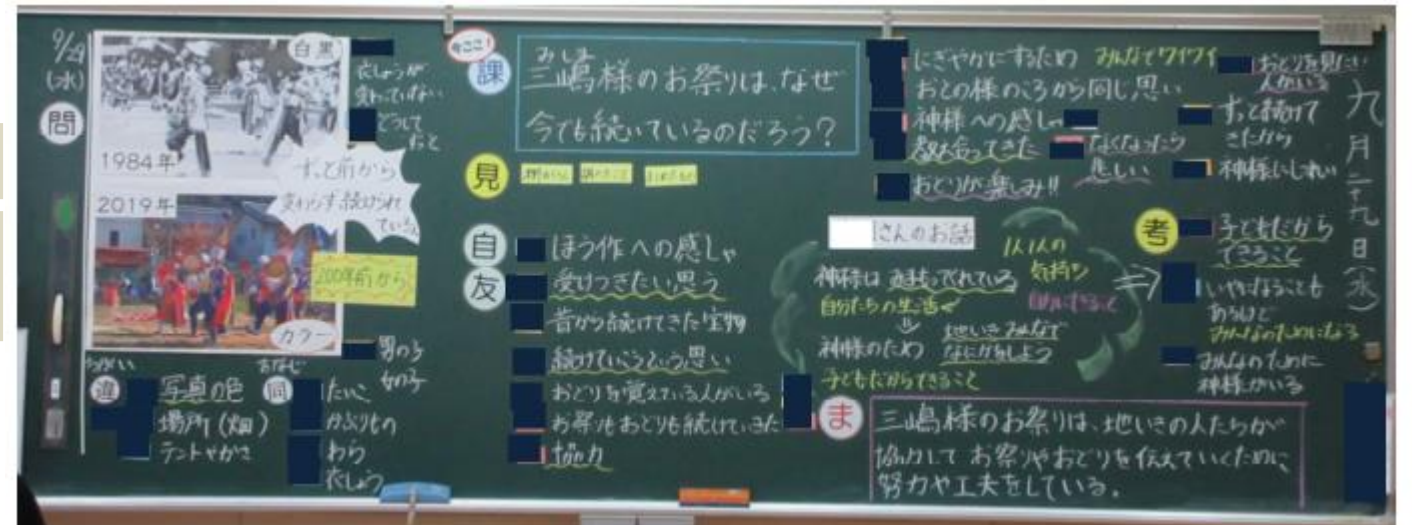
## 授業のねらい

地域の人々が受け継いできた年中行事について、その歴史やいわれ、保存や継承に関わる人々の働きや願いを調べて、地域の年中行事を受け継いでいくことの意味を考えることを通して、年中行事には、地域の発展を思う人々の願いがあることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、地域社会の一員として年中行事を受け継いでいくためにできることを考えようとする態度を養うことをねらいとしている。

## 本時の展開

活動内容	指導上の留意点
1 資料についての気づきや疑問を出し合う。	昔と今の三嶋様のお祭りの様子の写真を提示し、変わることなく長い間続けられていることを捉えさせ課題へとつなげる。
2 課題を確認する。	<b>三嶋様のお祭りは、なぜ今でも続いているのだろう？</b>
3 これまでに、調べてわかったことや自分の経験、知識をもとにしながら、お祭りがどうして続けて来られているのか考える。（個人→グループ→全体）	考えることが困難な児童には、予想を考えさせ、そう考えた理由を問う。
4 ゲストティーチャーの話を聞き、考えたことを発表する。	ゲストティーチャーの話を聞く。
5 今日の学びをまとめる	キーワード：思いや願い、努力や工夫、続けていくために
6 振り返り	振り返りの視点（分かったこと・もっと知りたいこと）を提示する。

## 板書



## 指導のポイント



① 導入で、本時の課題設定につなげるため、2枚の写真（昔と今のお祭りの様子）を提示し、問いを見いだす手立てとした。子どもたちは、2枚の写真を見比べながら、共通するところ、違うところを整理していく中で、「なんで、同じ衣装で200年も続いているのか。」という問いが生まれた。導入での資料については、教材研究会において検討され、比較・検討しやすい資料（同じ場所）、また、子どもたちが、考えたくないような資料に改善された。

② 資料館の見学で調べてきたことから、さらに、思考を深めるための手立てとして、ゲストティーチャーから話を聞く時間を設定した。本時の課題である「なぜ、今でも続いているのだろう？」に対し、子どもたちは調べてきたことを根拠に考えを発表していくが、実際に、ゲストティーチャーから話を聞いた後、「子どもにもできることがある。」「みんなのためになる。」等、自分事として考えている子どももおり、思考の変容が見られた。第三者からの意見を取り入れることで、多角的な思考を深める工夫が行われた。



## 講座のまとめ

教材研究会・授業研究会とともに、協議の柱として「単元を貫く問いと各時間の問いとのつながり」について協議を行った。単元構想図を基に単元ゴールのイメージをもつことの重要性や、単元を貫く問いとの整合性について話し合うとともに、見方・考え方を働かせるために適切な資料提示について協議が進められた。参加者からは、「教材研究での工夫・改善がよくされていた。」「単元構想図でのつけたい力がわかりやすい。」など、協議での学びの成果が挙げられている。また、「児童の疑問を核にして、学びを繋げていけるような教材研究」や「授業者の意図と子どもの思考の一致」などの課題も挙げられており、2セット目の講座の充実を図っていきたい。